



画像①一銭玉と10円玉



近所の信用金庫へ行っ
て貯金箱の小銭をナイロ
ン袋に入れたまま通帳と

鉄のふしぎ？ 博物館

■45

『ニッケルコイン』

共に、窓口の彼女に渡し
ました。寛永通寶や古い
コインが入っているかも
知れないので注意してく
ださい」と付け加えまし
た。磁石と一緒に石コロ
や各種のコインを持ち歩
いているからです。子ど
もを見つけると「石コロ
は磁石につくか？」と質
問するのです。「これが、
一枚入っていましたよ」
彼女が差し出した赤銅色

のコインは昭和7年の一
銭玉です。現在の10円と
色や形が非常によく似て
います。（画像①）
わずかの差を機械は高
速で自動判断し、種別毎
に計数しているのです。
「すごい賢い機械なんど
すね」そう言う、「でも
機械が詰まってしまつて
とがあるんですよ」「先
般、おばあさんが巾着一
杯のコインを持って来ら

れましたが、その時詰ま
ってしまいました」状況
を詳しく聞いてみると、
銀白色の50円玉が詰まっ
たようです。「こんな50円
玉ですか？」持っていた
昭和40年の、穴あき50円
玉を出して見せました。
「これです」実はこのコ
インが計数機の磁石につ
いてしまったのが原因で
す。これから、機械が詰
まった時のコインは取っ

ておくべきですね。次
の機会に貰いに来ます。
そう彼女にお願いしてお
きました。
日本で発行された最初
のニッケルコインは、昭
和8～12年の十銭と五銭
のニッケルコインです。
偽金が横行したことから
偽金対策として、従来の
白銅貨からデザインと材
質、製造方法の変更が行
われました。ニッケルは
磁石にくっつくため他の
金属と簡単に見分けられ
ますし、融点が高いため、
当時の技術では加工が難
しい金属で、偽造防止の
面で優れていました。最
新の高周波誘導電気炉と
熱間圧延法という2つの
高度な新技術で作られま
した。（画像②）

もう一つの理由は、ニ
ッケルの備蓄という目的
でした。昭和6年に満州
事変が勃発し、兵器類に
必要な特殊鋼の材料とし
て不可欠なニッケルを、
貨幣の形で備蓄したかつ
たのです。戦争が激しく
なるのを予想された昭和
12年にはニッケルコイン
は発行されなくなり、翌
年には10銭アルミ青銅貨
になりました。
2回目のニッケルコイ
ンは、私が子どもの頃、
昭和30年代に発行された
穴なし50円玉と、その後
の穴あき50円玉です。（画
像③）
自動販売機の発達した
日本では今後、磁石につ
くコインは発行されませ
ん。その理由は、前記の
信用金庫の事例でも判る
ように、硬貨計数機や自
動販売機のコイン認識シ
ステムの一部に磁石が使
用されているからです。
ちなみに現在つかわれ
ている中国の一元硬貨
は、鉄の表面にニッケル
メッキを施したもので、
磁石に強くつきま



画像③ニッケル50円玉2種類

衣川製鎖工業・衣川良介社長

画像はカラーと
交換しています。